

長屋静子プロフィール

東京都杉並区西荻窪生まれ。

都立桜町高校を経て日本女子大学住居学科卒業。

□日本大学理工学部建築学科近江栄・小林文次「建築論・建築史」研究室にて、横浜市と連携した歴史建築物調査で三菱倉庫 2 号館を担当し、現在の脚光を浴びた赤レンガ倉庫紹介報告書を作成した。

□浮世絵による国土空間の分析を江戸学者・西山松之助(成城大学名誉教授)にてオリジナルな研究「浮世絵から見る日本の河川文化」研究を開始。

□1998 年「東京の水辺を考える市民の会」鈴木忠義代表理事(東京工業大学名誉教授・社会学・景観論)および渡辺貴介教授(東京大学工学部・都市工学科卒業生、大西隆名誉教授とご学友・大方潤一郎名誉教授、原科幸彦氏元学長等と連携)、朝日新聞社大和田建太郎(社会部記者)から、私は設立発起人に推薦され、浜離宮・築地地区の環境保全に参加(伊藤滋先生、林泰義先生、進士五十八先生等がメンバー)

□鹿島建設株式会社建築設計部に勤務(新宿三井ビル)ホテルライプツィヒなど海外プロジェクトに参画。

□株式会社アルゴ都市設計・水環境室長に就任し、八十島義之助委員長(東京大学土木工学課・名誉教授・元土木学会会長)の汐留再開発計画等の事務局メンバー・設計チームとして、せせらぎ計画等デザインに参加。

□建設省中部地方建設局から、当 JV 組織に優秀コンサルタント賞が授与【中山道ロード・ミュージアム計画】【歌川広重の中山道の名所と自動車交通の休憩書をプランニングで空間を高めるデザインに参加。】

□1988 年頃、建設省土木研究所環境部にて島谷幸宏室長(現・グリーンインフラ・リーダー、循環型社会推進者、九州大学名誉教授)と日本全国の河川環境再生事業・川遊び研究調査に参加。

□利根川河川環境調査にて、萱場裕一主任研究員(現・名古屋工業大学教授)と利根川佐原の町の観光と伊能忠敬の歴史、小野川等周辺の歴史建造物を調査し、地元の観光に配慮し、川の駅・道の駅づくりへと発展し【その後、国土交通大臣賞を地元が獲得する基を指導】

□1988 年 故鈴木忠義名誉教授等の推薦で「東京の水辺を考える市民の会」設立発起人になる。

□1990 年 中村良夫名誉教授(京都大学・東京工業大学名誉教授)・コンサルタンツ会社、建築設計事務所等と「河川リゾート研究会」を設立し、欧米各地の都市環境再生と河川環境再生・生き物とのふれあい・リゾート空間等の調査地点をプロデュースし視察を実施。研究会には沖大幹教授、故足立敏之(参議院議員、元水管理国土保全局長、元技監)等が参加した。

□1992 年 日本各地の川の生き物とのふれあい利用・環境保全に関する委員会委員を歴任し、オランダ・ベルギー・フランス・イギリス・ドイツなど長期の現場のフィールド視察・現地の子供との活動に参加。政策・活動の流れ・収支等調査し国土交通省・財団等に報告。

□1993 年 現天皇陛下(当時の皇太子殿下)から河川交通(18 世紀イギリス・テムズ川における舟運)に関して講義を頂く「河川と交通研究会」を学習院大学にて共催し川の名前の付くお酒を持参する親睦会を開催し、皇太子殿下と乾杯を行った。

□このころ イギリス各地の運河体験視察、内陸水運アメニティ機構の D. goewling 計画部長の案内で運河で街づくりの現場を視察、市民とのパートナーシップ事業をご案内いただく。

□1995 年 阪神淡路大震災長田地区建築コンペにおいて建築家池上修一グループで参加し、金賞なし銀賞 2 席で受賞。「杉丸太を使い、DIYで被災者自身が夏の家をつくる」

□2000 年 この頃から「流域フォーラム」を設立し流域と地域のまちづくり、風景づくり、人育て、生物多様性に関わり参加。市川で潮入の庭園を再生させる佐野郷美(NPO 市川みどりの市民フォーラム事務局長、東邦大学講師・生物多様性)等と連携しシンポジウムの実施。

□2002 年 高橋裕団長「イギリス・オランダにおける水環境調査団」のプロデュース実施し現地調査。

□江戸川・利根運河(野田市、流山市)では吉川勝秀氏(国土技術政策研究所)、庄司邦明(国立学校法人・海洋大学名誉教授)、北村匡(江戸川下流河川事務所長)等と委員会・ワークショップで検討し、市川市・和洋女子大および江戸川の防災船着き場、東京海洋大学等を拠点としてフォーラムや舟運社会実験を開催。地元と話し合い「行徳の常夜灯」など歴史的文化財を再建させる等社会貢献事業を推進。(中川番所船着き場設置等各地の船着き場設置に貢献)

□フランス・ブルターニュ地方、ベルギー、アヌシー等にて「河川環境をフィールドとする子供の水辺・組織・運営調査」を実施。

□2012 年～法政大学工学部建築学科大学院・社会人博士後期課程「都市史・流域論」にて研究・調査:イギリス・テムズ川とロンドン、ドイツ・エルベ川とハンブルク等と東京の運河や河岸・舟運社会実験・通勤社会実験を日本橋川・朝潮運河等で行う・干潟の再生・潮入の河川の再生検討等を行う。

□2017 年 江戸川、利根川にて交流事業を推進し、河川財団より河川活動に関して【「優秀団体賞」(一社)流域フォーラム代表長屋静子】に授与された。

□2020 年～ 東京新聞にて高橋裕一元浜離宮庭園センター長の「浴恩園」と発掘への展望が掲載された。その記事を読み読み、コンタクトを取り浴恩園に関してご教授頂き 2023 年にシンポジウムを開催しご講演頂く。

□2024 年 松平定信の歴史から築地浴恩園に関し独自に執筆を始める。
東京農業大学教授等に指導を受ける。

□2024 年 6 月 築地浴恩園の文化財保存に関して文化財保存全国協議会の市川大会で、浴恩園の現地再生を報告。

□2024 年 7 月 31 日 都庁にて記者発表「浴恩園の現地保存再生」築地浴恩園再生学会のベースとなる活動を始める。

□2024 年 8 月 1 日 「遺跡発掘現場視察会」当会主催【現地視察を東京都都市整備局に申し出たが断られた】講師:文化財保存全国協議会、上田令子都議参加。

□2025 年 3 月 15 日 「築地浴恩園再生学会・命名・シンポジウム」を東洋大学(文京区)で開催。講師:長屋静子代表理事、清野聡子当会専門委員(九州大学工学部准教授)、学芸大学付属高校の教諭の指導の下、高校生が「再開発」について研究発表。環境を考えて超高層反対とかの意見が基本的に出てきた。

□学習会が 43 回継続している。中央区の地元が「築地の歴史・まちづくり会」を立ちあげ目先の金儲けではない歴史に沿ったまちづくりを目指す仲間が集まってきた。

□2025 年 6 月 14 日 松平定信翁公墓前祭りに参加し白河市長鈴木和夫市長築地浴恩園再生学会メンバー、日本考古学協会・文全協等で文化交流を開始する。

□2025 年 7 月から東京都が再開発で開始した発掘調査に関して、都議会超党派による遺跡発掘調査団の勉強会を 2026 年 1 月 15 日に行う要望を都市部長に都議から話したが許可は出なかった。

□2026 年 3 月 1 日 東京湾 NBS 国際シンポジウム講師メンバーによる現地視察会案内人として浜離宮の築地川、潮入の庭園、松平定信がつくった「浴恩園」をスミソニアン研究所の Dr. Andrew Chyang 氏等にご案内。発掘現場での視察の許可が出ないため、汐留の展望コーナーから東京湾を背景にして、浜離宮庭園、築地川、浴恩園遺跡発掘現場を展望する。白と青の仮設のテントが池のあたりに建設されているのを視察。遺跡保護のための対策を聞かれ東京都議会への請願書を提出する話をした。

□2026 年 3 月 2 日・3 日 東京湾 NBS 国際シンポジウムが江東区民ホールおよび東京大学伊藤謝恩ホールで開催され、東京湾の浄化生物多様性が語られた。実際の潮入での実施が期待される。東京都港湾局、環境局で実施されている。

2026 年 3 月 14 日 東京登龍会第 10 回フォーラム開催 オープニングで「松平定信がつくった浴恩園の再生」を講演し、矢吹 幸夫氏から株の話をお聞きした。

2026 年 3 月 16 日 東京都庁でもり愛都議、漢人あきこ都議、上田令子都議らの推奨で都議会に受理され、署名活動へと推進。